

サイレントワールド講習

# アンケート調査結果

私立女子大学における障がい学生支援と障害理解

特定非営利活動法人障がい者相互支援センターMCP

特定非営利活動法人長野サマライズ・センター



## 講義内容

大学にて「はじめての手話」の講義を行った。  
受講生のほとんどが1年生で、手話について初めて学ぶ人が大多数だった。  
講義内容は、手話の実技に入る前の障害理解につながる座学である。  
講義では、手話の世界、大学の支援（支援者の立場から）、当事者の声と考えの3点について講義を行った。  
講義時間は90分間で、パワーポイントのみを使用。

## 講義目的

聴覚障がい当事者の立場から、「障害は一人ひとり違う」ということや手話の意義、支援の必要性について指導。また、支援をしてきた立場からも、支援をするにあたってのアドバイスや支援をすることでのメリット等を指導した。  
手話についてだけでなく、当法人の紹介も行った。学生たちが、聴覚障がい学生支援について何らかの興味を持ってもらえること、支援者を増やすことが目的。

日程 平成24年5月7日

時間 16:30~18:00

人数 79名

講師 2人（1名は聴覚障害）

※学生時代に支援を受けてきた者、支援をしてきた者がそれぞれ講義と経験談を話した。（メンター制度）

## 手話の世界

手話のイメージ、必要性などを始めに学生に質問した。

学生の大半の答えが、「手話は聞こえない人が話すもの。聞こえない人は口がきけない為、手話を使って話す」といった回答が返ってきた。

近年、ドラマの影響もあり聴覚障害者は口話ができない、聴覚障がい者は皆同じ、手話は国際でも通じるなど、そういったような思い込み、誤解もあると知った。

手話の必要性、特徴、ろう者の文化等を交えながら、言語としての手話ということ指導した。

実際に、手話を第一言語とする当事者の話によって、受講生も興味を示し、手話に対する誤解や、思い込み等を減らすことにつながった。

### (スライド抜粋)

はじめての手話  
手話の世界へようこそ

ここからは、手話について少しだけみなさんと話をしてみたいと思います。

手話のイメージは何ですか？

ドラマ、聞こえない人、喋れない人…

そんなイメージありませんか？

学生の考えていることを始めに問いかけると、大半の学生からうなずく声をきいた。

私にとっての手話…  
まず、伝えたいこと。

「手話」とは、言語のひとつ。  
みなさんは、全く口話(口で音声言語を話すこと)ができない耳の聞こえない人が使うものと思っていませんか？

ドラマ(「オレンジ・デイズ」「ラブレター」「君の手がささやいている」「37歳で医者になった僕」)などなど、最近でもドラマで手話を見かけるようになりました。

でも…ドラマでは、ろう者の人は「声を出さない」人ばかりです。しかし、私も左耳は130dB、右が80ぐらいの聴力しかありません。私が話せるのは、言語聴覚士の発音訓練をうけたからです。

よく、「話せるから聞こえている」と誤解をうけます。

当事者にとっての手話とは何か。また、聞こえない人は話さないのか、話す人は、聞こえているのかなど、普段、受けやすいろう者の誤解を説明。

## 大学の支援

支援をしてきた立場として、支援の楽しさや支援に関することを Q&A 形式で伝えた。

支援の心得、支援方法や聴覚障害者との関わり方など、実体験を通していろいろなアドバイスを指導。

手話と同時に、聴覚障がい者への情報保障を知ってもらうことで、手話だけではなく、それを支援に活かしてもらえよう情報保障について織り込んでいく。

## パワーポイント抜粋

### 支援の心得

支援をするにあたって皆さんに覚えてもらいたいことがあります。

「支援があって初めて授業が受けられる」

このことを頭に入れておいてください！  
ノートテイクがなければ、授業を聞くことができません。支援があって初めて授業に参加できるのです。

### 支援をすることで変わる自分

支援は決して楽なことではありません…。やはり苦しいこともたくさん出てきます…。

しかし、そこから自分の生活も変わっていきます！

- 授業のポイントを理解しながら聞くことができる
- たくさんの授業を聞くことができる楽しさと、新しい知識が増える喜び
- 人との繋がり、輪が広がる

### 実際に支援をする

Q、支援は1人??  
A、2人一組で行います。

Q、ノートテイクは書き続けるの？  
A、交代制で行います。最初はベテランの人と行うことが多いので、心配なし！

Q、90分書くのは大変そう…  
A、誰でも最初は大変です。けど、少しずつ慣れていきます。そうしたうちに、いつの間にかベテランに！

## 当事者の声

当事者にとって、支援がどのようなものか、必要性等を受けた立場として伝える。情報保障がなければ困る事、支援者がいて初めて授業を受けられることを伝える。障がい学生から、支援者への心得や注意すべきこと等も合わせて伝える。

## パワーポイント抜粋

ろう者として支援を受けて・・・  
私の4年間は支援との二人三脚でした  
支援の必要性・・・  
支援があることで授業を受け、テストを受け、今に至ります。

大学でも、「わかる」授業を受けられたことは、本当に感謝しております。情報保障の支援があったから、4年間大学に通うことができました。筑女で出会ったテイカーさんの支えは大きな支えになり、かけがえのないものです。  
また、親友や仲間に出会い、多くのことを高校時代よりもたくさん学びました。筑女で学べたことに感謝しながら、今後もあらゆる障がいを持った後輩たちの役にたつことができれば、NPO法人の道に進みました。

支援がどのように学生生活に役立っていたかを伝える。  
また、支援者との関係を学生に教えることで、支援者と障がい学生が相互に支援し合うのだということを確認してもらう。

支援の心得  
支援をするにあたって皆さんに覚えてもらいたいことがあります。

「支援があって初めて授業が受けられる」

このことを頭に入れておいてください！  
ノートテイクがなければ、授業を聞くことができません。支援があって初めて授業に参加できるのです。

支援といっても、学生にとって初めてのことであるため、支援の必要性、性質を伝える。

## 初めての手話 アンケート調査結果

講義を受けての感想を今後の活動に活かすため、障がい学生の進学把握等を目的に以下の通り、アンケート調査を実施。

### 1. アンケート調査の方法

平成24年5月7日、福岡県内大学にて講義を行い、終了後にアンケートを実施  
用紙に記入してもらう形式で実施。  
講義内容は上記の講義報告書にて提示。

アンケート総数 79      アンケート回収率100%

### 2. アンケート詳細

#### ① アンケート調査の目的・意図

今後の講義方法を確立するため、学生の生の声を聴き、改善、改良すべき点を把握する。また、障がい児の進学状況、障害を有する人が身内、自分のまわりにいるか、まわりにいたか等を今後のさらなる実態調査のため把握したく実施をした。

#### ② アンケート内容・結果

- ・今日のお話はどうでしたか？（本日の講義についての感想）
- ・家族や自分の周りに、障がいを持った人や他大学・ほかの教育機関に進学した障がい学生はいますか？の2項目で実施。

#### ③ まとめ

アンケート集計をしたうえでの今後の課題、結果等をまとめる。

## 今日のお話はどうでしたか？（抜粋）

### 手話について

- 手話をたくさん学びたいと思った
- 手話ができることのメリットを知れた
- 手話をさらに学び、会話ができるようになりたい
- 今まで手話は難しいと思っていた、思っていた印象と違った
- 手話はきちんとした言語であるということが一番印象に残った
- 改めて手話の大切さを知ることが出来た
- 講義中、手話もしながら話してくれたので、こんな風に表現することなど勉強になった
- 大学から手話を初めてあんなにスラスラできてすごいと思った、私もスラスラ会話ができるようになりたいと思った
- 手話について聴覚障害者の立場と健聴者の立場から聞いて良かった
- 障害を持っている人と積極的にコミュニケーションをとり、手話も学びたいと思った
- 手話で話したいと思った
- 手話は遠く離れた人とも手が見えれば会話ができるので便利だと思った
- 手話をしていて講師の先生がかっこよかった
- 手話に対して堅苦しい、難しいイメージがあったが、大学から始めてスラスラできていた講師の先生をみて自分でも学べると思った
- 話しながら手話も使っていてすごいと思った
- 手話は立派な言語だと思った
- 手話は日本だけのものと思っていた
- 手話はドラマのように声を使わず無音であるイメージがあったが声を出し元気がいっぱいに話をする姿をみて、独学で勉強をしていた手話のやる気が出た

### 聴覚障害について

- 聞こえない人と音声で会話をするとき、少しでも聞こえているから会話ができるのではなく、口の形を読み取ったりしているからできることを知らなかった
- 講師の先生がきれいに話していたので聞こえる人と思っていたが、訓練を受けて話せるようになるということを初めて知った
- ドラマでしか聞こえない人を見たことがなかったので、ドラマのような人というイメージをしていたが、現実は違った
- ドラマの影響で、手話を使う人は話せないと思っていた

## 障がい者支援について（学内支援含む）

- 支援があって初めて授業に参加できるということを改めて感じた
- 支援のメリットが知れてよかった
- 字が汚いので支援は難しいと思った
- ノートテイクの必要性を知れた
- 支援をしていきたいと思った
- 最初は責任があるし、自分の勉強がおろそかになると思ったが、自分にメリットがある事を知ったのでしてみたいと思った
- 大学にいる4年間で人の役に立てることをしたい
- 今までは授業の内容をすべて書くのは無理とあきらめていた
- 同じ大学で学ぶ学生のために少しでも支えになりたいと思った
- 自分には難しいと思っていたが、今日話を聞いてやろうと思ったら自分にも出来そうと思った
- 学内支援に関して前向きに考えようと思った
- 支援等にもっと積極的に取り組んでいきたいと思った
- 学生時代支援をしていた方の話だったので、自分でもできるのかなと思った
- 支援は思っていたより身近にできるものだった
- テイクは、書くのも遅いし、眠くなるのでできないが、手話は頑張りたい
- 就活の時に役立ち、聞く力が身につくのはいいメリットと思った
- 責任は重いけどできることはしたい

## 2、家族や自分の周りに、障がいを持った人や他大学・ほかの教育機関に進学した障がい学生はいますか？

自由記入のため、特定しにくい回答も複数あり、身内と判断できないものはいら（友達等）に含める。

無記入	28名	
いない	24名	
いる（友達等）	15名	
いる（身内）	12名	合計 79名

\*実際に行ったアンケート最終用紙は最終ページにて添付

あんけーと

## まとめ

今回の講習会と、アンケート結果より、聴覚障害についての間違った認識が多いことが分かった。

学生の多くは、近年ドラマで取り上げられることの多い聴覚障がい者の「しゃべれない」「しゃべらない」などの設定から、聞こえない人はしゃべらない、しゃべれないというイメージを持っていることが分かった。

しかし、実際に聴覚障がい者が口話を使い講義をし、DVDの映像等を使い、話せる人も中にはいるのだということを学生に示すことで、「現実」の聴覚障がい者たちは声を使う人もいるのだという理解をしてもらえた。

手話についても、言語としての認識がないことやニーズが少ないことから、自分には出来ない、堅苦しい、聞こえない人だけのものだから等のあまりいい印象は持っていない学生が多くみられた。

今回の講義では手話と音声を交えながらの講義形式をとったため、もっと身近に感じてもらうということで、大学生になってから、手話を学んだ者が講義を進めた。

手話を使いながら講義を行い、学生に今からでも手話は始められるということを示した。

それを見た学生からは、大学生からでもできるなら、頑張りたい等の感想をたくさんいただいた。

また、手話は世界共通語であるとのイメージが8割以上に上った。

これは言語としての認識がないことも大きく影響しているのではないかと考えられる。学生にまず手話は言語であるという認識をしてもらうことが重要と感じた。そこで、手話にも若者言葉や方言が存在するのだという話を行い、学生にもっと手話は自分と距離が近いものだということを指導した。

次に、障がい学生支援について、学外支援と学内支援について説明をした。

今回講習に行った私立大学には、学内に聴覚障がい学生支援団体が存在している。そのような背景から、手話を支援にも活用したいという声が多数あった。しかし、学生の反応から、やはり自分には出来ない、難しいというイメージが先行し、初めから学ぶ前に諦めてしまう学生の姿が多々あった。

また、支援方法を知らず、どうすればいいのか、自分でも支援はできるのかなど不安に思う学生もいた。今回の講習の中で、聴覚障がい者支援の方法を分かりやすく説明することで、自分にもできるという気持ちに変わる学生もいた。

また、支援をすることで、自分にもメリットがある事を知るとさらにやる気の出る学生が多かった。聞く力が付く、話の要点が分かる、パソコンスキルが上がる等の様々なメリットを伝えることも、支援者が増えることにつながる。

大学時代支援をした者の話と、受けていた者の体験談を話すことで、情報保障の必要性、責任の重さを理解してもらうことが出来た。

当法人は講習会・講義・相談に応じる時はメンター制度\*1 を取り入れているため、より学生に近い立場で相談に応えられるよう、また支援をした、受けたことのある先輩として話すことで、学生が自分にもできるという気持ちになるように行っている。今回の講習においても、メンターによる指導効果が示され、学生たちのやる気と、障がい学生支援のきっかけ、正しい障害理解へと結びつくこととなった。(アンケート参照)

最後に、講習を行った学生の周りに、障害を持った方がどれくらい身近にいるのか調査を行った。その結果、多くの学生が、障害を持つ人との接点がある事も分かった。

身内や学校の同級生の中には特別学級があったなど様々な情報を得ることが出来た。

個人情報の問題もあり、細かく調査はしていないが様々な障害の方との接点があることが分かった。

このような学生たちが集まっていたからこそ、正しい障害理解のもと、支援へと結びつけてほしいと考える。

\*1 メンター制度・・・信頼のおける相談相手。MCPでは、年齢の近い先輩スタッフ

(支援経験者)のこと